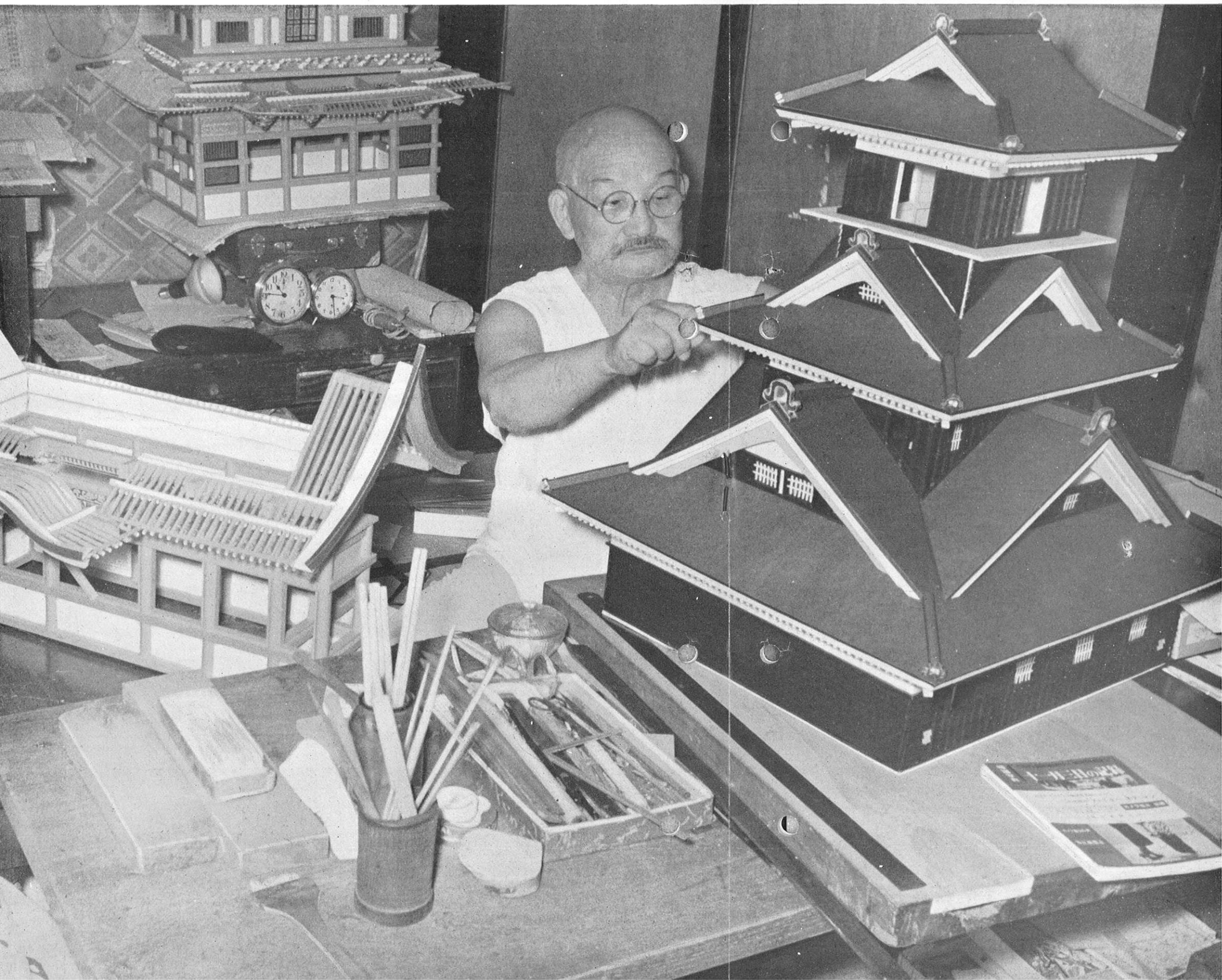


ふるさと

の風物

(山鹿とろうろう)



山鹿の民芸品、いわゆる紙とノリの美術工芸「山鹿とろうろう」は、遠く応永年間(六百年前)に初めて大宮神社に献納されたのはじまる。その後江戸時代には、時の將軍徳川秀忠へ献上されるまで技術的な飛躍をみたといわれている。

現在では、とろううだけでなく神社、仏閣、城、民家、鳥籠などの題材にまで拡がり、毎年八月十六日の灯笼まつりには、名物として夏の夜の情緒を彩っている。

県の近代文化功労者となつた山鹿とろうう製作の第一人者松本清記さんは、若い頃からきびしい修練を積み、家業のかたわら根気のいるとろうう作りに情熱を注いできたが、同じく伝承の特技に精根をかたむけるこの町の五人のとろうう師とともに、今も地味な製作を続けている。

(写真は「熊本城」をつくる松本さん)